

## 学校関係者評価委員会報告書を受けた 令和6年度の改善方針

- 1 学びの基礎・基本を身に付け、主体的に学習する児童の育成
- 2 規範意識を身に付け、自分も周りの人も大切にできる児童の育成
- 3 積極的に運動し、目標に向かって粘り強く取り組む児童の育成
- 4 学校や地域の特色を踏まえた魅力ある教育活動の推進と、「世田谷社の学び舎」における取組の充実
- 5 「なりたい自分」につなげるキャリア教育の充実

### 【徳育】やさしい子

- ・地域の教育資源等を活用した特色あるキャリア教育を推進し、自分の活動で周囲を変えたりよくしたりできることを実感させながら自己肯定感・チャレンジする意欲を育む。
- ・お互いが認め合うことのできる学級活動を実践し、支持的風土のある集団を育てる。
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」をキーワードに規範意識を育み、基本的生活習慣の定着を図る。
- ・多様性を理解し人権教育を推進していく中で、いじめをしない・傍観しない児童を育成する。
- ・年間を通してあいさつ運動を展開し、自ら元気よくあいさつをする態度を育てる。
- ・異学年で構成する若小班活動や隣接保育園との交流を通して上学年には下学年を思いやる心を、下学年には上学年を尊敬し感謝する心を育てるとともに、非認知能力を育成する。

### 【知育】よく考える子

- ・共感、協働を基盤とした各教科等の「探究のサイクル」を確立させるとともに、カリキュラム・マネジメントにより思考力・判断力・表現力を育成する。
- ・一人一台タブレット端末を、「文房具」のように活用した活動を展開し、情報活用能力を育成するとともに、児童の学習状況に応じた「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を図る。
- ・豊かな言葉の担い手を育てるために、若小朗誦や教科「日本語」を中心とした暗唱検定、音読発表会等の充実を図る。
- ・話し合い活動を意図的・計画的に実践し、意見の交流を通して、児童自ら考えを広げ深めることができるようにする。
- ・日常的な読書活動の推進により、児童の豊かな心や表現力、語彙力を育む。
- ・学校支援地域本部と連携し、日々の学習に地域人材・学習材を活用する。

【めざす職員像】～若林小が求める職員の姿～

- ・向上心を持ち、自己の資質向上に努める職員
- ・誇りを持ち、自覚と使命感をもって児童・保護者・地域から信頼される職員
- ・教員同士で切磋琢磨するとともに、組織的に協働する職員

## 学校教育目標

【校訓】  
「至誠にして動かざる者は未だ之れあらざるなり」～誠を尽くす若林の子ども～

【目指す児童像】

- やさしい子ども  
生命を尊重し、心身ともに健康で活力に満ち、たくましさや他を思いやる心を兼ね備えた子
- よく考える子ども  
自分の力で粘り強く考え、正しく判断し、創意工夫して行動する自主的・自発的な子
- がんばる子ども  
目標をもって最後までやりぬき、達成感を味わいながら成長していく子

### 目指す学校

- 徳に進み学業を修める学校（進徳修業）  
真心を尽くし、誠を貫くことを大切にし、知・徳・体の調和ある教育を推進する。
- みんなで磨き、創る学校（玉磨かざれば 光らず）  
児童、家庭、地域、学校が互いの役割と相互の協力を大切にして、創意工夫しながら取り組む。
- 歴史と伝統を受け継ぎ、共に歩む学校  
歴史と伝統を受け継ぎながら愛校心を育み、共に成長することを誇りとする。

### 【体育】がんばる子

- ・多様な運動に親しむことができる場を設定し、目標に向けて粘り強く取り組む態度を育てる。
- ・「若小チャレンジ」では、体育の授業に加え、全校一斉の取組やクラス目標の設定などにより意欲を高める。
- ・運動領域に応じて外部講師を招いた体験活動を実施し、運動の楽しさを味わわせながら興味・関心を高める。
- ・体育授業においてタブレット端末を効果的に活用し、学習の振り返りを通して運動能力の向上を図る。
- ・食育の一環として、季節の食材や日本や世界の食文化を知る機会となるような給食メニューを企画・提供する。

### すまいるルーム指導の重点

- ・児童個々の特性や保護者の願いを踏まえた指導計画を作成し、適切な手立てを講じながら児童がもつ力の向上を図り、学級への適応力を培う。
- ・関わり合いを生かした指導の中で、ソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを身に付けさせ、対人関係の改善を図る。
- ・情緒の安定を図り、できることに対して自信を深め、よりよく伸びる力を育成する。
- ・自己肯定感を高め、自分や周りや折り合いながら前向きに学習や生活に取り組もうとする意欲や態度を育む。
- ・在籍学級担任や保護者と共通理解を図り、チームとして一貫とした指導・支援を継続する。

## 令和6年度 重点目標

- 1 **学びの基礎・基本を身に付け、主体的に学習する児童の育成**  
「教師は学びの伴走者」であることを踏まえ、一斉型授業から脱却し、児童自ら問いを立て解決していく探究プロセスを踏まえた指導（「せたがや探究的な学び」）を全教科において実践する。また、児童が主体的に学びに向かい、生涯にわたって能動的に学び続ける学習者となるよう指導方法の工夫・改善に取り組み、質の高い授業を構築する。さらに、探究学習や情報教育を通して、タブレット端末を児童自らが効果的に活用できる判断力や思考力、情報活用能力を育成する。ICTの活用を加速化させ、「個別最適な学び」「協働的な学び」の確実な実現を図るとともに、教職員の業務変革を進める。
- 2 **規範意識を身に付け、自分も周りの人も大切にできる児童の育成**  
全教育活動を通じて児童の規範意識の醸成を図るとともに、人権感覚を高め、互いに多様性に配慮し、多様性を理解・尊重することができる児童を育成する。また、誰もが偏見・差別を受けずに周りに認められ、安心して自己発揮できる学校・学級づくりに努める。
- 3 **積極的に運動し、目標に向かって粘り強く取り組む児童の育成**  
運動の楽しさと心地よさを味わわせ、児童自ら様々な運動に親しむ態度を育てる。また、自己の目標に向かって粘り強く努力を続ける経験を通して、達成感を伴った成長を促していく。
- 4 **学校や地域の特色を踏まえた魅力ある教育活動の推進と、「世田谷社の学び舎」における取組の充実**  
「まち全体が学びの場」「学校と地域でつくる学びの未来」をコンセプトに、地域社会と協働し探究のサイクルを意図した学習を組み立て、これからの社会で必要となる資質・能力を確実に育成する。また、価値ある学びの取組を学び舎においてさらに充実・発展させていく。
- 5 **「なりたい自分」につなげるキャリア教育の充実**  
地域の教育資源の活用や異学年及び隣接大学、保育園等との交流活動を中心に特色あるキャリア・未来デザイン教育を展開し、自分の力で周囲や社会をよりよく変えたという実感を捉えさせながら自己肯定感ならびにチャレンジ精神を育む。さらに、「なりたい自分」につなげるキャリア教育を工夫・充実させ、児童のキャリア形成を図っていく。

- 指導と評価の一体化を充実させ、授業改善をさらに推進していくとともに、授業準備に係る時間的な効率化も併せて図る。
- 教科担任制の導入や校務支援システムの効果的な活用など、先行自治体や他校の取組を参考に本校の実態に合った働き方改革を推進する。
- すぐるを活用した学年便り等の配布、校内LANを活用したプリント不要の職員会議、集約物のデジタル化などを通して、ペーパーレス化を一層推進する。
- 通知表の作成を改善し、所見を保護者面談での伝達に代えるなど、教職員の事務負担軽減を図る。
- スクールサポートスタッフを効果的に活用するために、業務依頼ノートを作成し、対面でなくても円滑に仕事を依頼できるようにする。また、PTAや地域、企業等の協力を得て、教員が本来の業務に専念できる職場環境を整える。



○若林小職員としての高い志をもち、誠を尽くす。

- ・若林の歴史、文化、自然などの学習資源を生かした教育を推進する職員
- ・児童一人ひとりを認め、子もつ可能性を伸ばし、夢を育てる職員
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」を児童とともに実践する職員